

# 第九中学校だより



## 第48回卒業証書授与式における学校長の式辞から

3月13日（金）実施の第48回卒業証書授与式において、一人ひとりの成長を喜び、感謝とともに未来へ送り出す想いを込めたメッセージを伝えました。

また、本年度も残すところわずかとなりました。生徒の成長を支えていただきました保護者・地域の皆様に、心より御礼申し上げます。今後とも引き続き、ご支援、ご協力のほどよろしく申し上げます。

（前文抜粋）

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。三年間の中学校生活で、皆さんは勉強や行事、部活動、生徒会活動など、さまざまな経験を積み重ねてきました。嬉しかったこと、思うようにいかなかったこと、その一つひとつが皆さんを大きく成長させました。仲間と励まし合い、ときに意見をぶつけ合いながらも、よりよいクラスや学校をつくろうと努力してきた姿を、私は誇りに思います。

さて、今年度は日本にとって大きな節目の年でもありました。皆さんが校外学習でも参加しました大阪・関西万博では、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに掲げ、世界中から多くの人々が集い、未来の社会のあり方を共に考える場となりました。そこでは、最先端の技術や新しいアイデアだけでなく、多様な文化や価値観が出会い、互いに認め合いながら未来を創ろうとする姿が見られました。この万博が伝えたかったことは、未来は誰かが与えてくれるものではなく、私たち一人ひとりの選択と行動によって現実化するということです。皆さんがこれから歩む道も同じです。自分の可能性を信じ、違いを恐れず、多様な人々と協働しながら新しい価値を生み出していく力が必要になってきます。

ところで、「未来」といえば、22世紀の未来の世界からやって来た、幼い子どもから多くの人に親しまれているキャラクターを思い浮かべることはできますか？それはネコ型ロボットのドラえもんです。ドラえもんは、困っているのび太を助けるために、様々な「ひみつ道具」を取り出します。空を飛べる道具、遠くへ瞬時に移動できる道具など夢のような道具が次々に登場します。しかし、ドラえもんの物語をよく見ると、本当に大切なのは道具そのものではないことに気がつきます。のび太は道具に頼りすぎて失敗することもあります。そのたびに自分で考え、努力し、友達との関係を見つめ直しながら成長していきます。ドラえもんがそばにいるのは、魔法のようにすべてを解決するためではなく、のび太が自分の力で未来を切り開くための後押しをするためなのです。マンガがTV放映や連載されていた当時に本当にあったらいいなと思われる「ひみつ道具」でも、2026年現在では、実現している道具もあります。例えば、「ほんやくコンニャク」は翻訳アプリ、「糸なし糸電話」はスマートフォンなど、100種類以上が現実に近い形で実用化されていると言われており、人々が思い描いた未来を本気で実現しようと努力を重ねた結果、時間をかけて一つひとつ形にしてきました。

皆さんの人生には、ドラえもんのようにすべてを解決してくれる「ひみつ道具」はありません。しかし、皆さんの中には、すでに皆さんを支えてくれるかけがえのない道具を持っています。それは、これまでに身につけた知識や技能、仲間と築いた信頼関係、失敗から学んだ経験、そして何より「挑戦しようとする心」です。これから先、思い通りにいかないことや、不安を感じる出来事に出会うこともあるでしょう。そのとき、万博が伝えたかった多様な人とつながり、知恵を出し合いながら解決する道を探ってください。そして、ドラえもんの物語が教えてくれるように、困難を乗り越える力は自分自身の中にあることを思い出してください。

保護者の皆様。本日までの十五年間、お子様の成長を支え、励まし続けてこられましたことに、心より敬意を表します。思春期という難しい時期を迎えながらも、今日この日を迎えられたのは、ご家庭での温かな見守りがあったからにほかなりません。本校教職員を代表し、深く感謝申し上げます。

卒業生の皆さん。いよいよ旅立ちのときです。皆さんは、無限の可能性を秘めています。未来は遠いものではなく、皆さんの今日の一步の積み重ねの先にあります。どうか自分を信じ、他者を尊重し、社会の一員として責任ある行動を心がけてください。そして、失敗を恐れず挑戦を続ける人であってください。いつの日か、皆さんがそれぞれの場所で活躍し、再び母校を訪れてくれることを楽しみにしています。そのとき、今日のこの卒業式が、新たな未来へ踏み出す出発点であったと誇りをもって語れるよう願っています。

皆さんの未来に幸おおからんことを心から祈念し、式辞といたします。

令和八年三月十三日

梨の木学園寝屋川市立第九中学校長

清水 通生